

日本原子力学会 第 147 回倫理委員会
議事録

1. 日 時：2024 年 11 月 20 日（水）15:20～18:00
2. 場 所：東京大学工学部会議室+Zoom（ハイブリッド） ※：Zoom 参加
3. 出席者：大場委員長，手柴副委員長※，神谷幹事，伊藤(公)委員，大久保委員，沖田委員，
後藤委員，芝原委員※，出町委員，中野委員※，中村委員，福家委員，藤田委員
(委員 15 名中 13 名出席)
小林特別委員※

4. 資 料：

- 倫 147-1 前回議事録（案）
- 倫 147-2-1 倫理委員会活動計画
- 倫 147-2-2 倫理委員会役割分担表
- 倫 147-2-3 技術倫理協議会の活動状況について
- 倫 147-3 第 30 回 YGN 若手勉強会・第 22 回倫理研究会 実施結果概要
- 倫 147-4-1 倫理委員会 2025 年春の年会企画セッションの企画・準備（案）
- 倫 147-4-2 倫理委員会 2025 年春の年会企画セッション提案書
- 倫 147-5-1 次回倫理規程改定に向けた検討について
- 倫 147-5-2 倫理規程改定検討比較表
- 倫 147-5-3 倫理規程改定（案）比較表
- 倫 147-5-4 理事会報告資料案

5. 議事概要：

(1) 前回議事録について

神谷幹事から資料 147-1 に基づき説明があり、誤記を修正する前提で了承された。

(2) 活動計画および役割分担について

- 手柴副委員長から資料 147-2-1、147-2-2 に基づき説明があり、また、中野委員から資料 147-2-3 に基づき、技術倫理協議会の活動状況について報告があった。主な議論等は以下のとおり。
- ・ミニ講演会については、おおむね提案のあった頻度で実施していくこととした。また、理事委員および特別委員は任期 1 年で交代になる可能性があるので、現在任期の残り期間の間で優先的・積極的に対応いただけないか、別途大場委員長が調整することとした。
 - ・倫理研究会については、現実的に年 1 回の頻度で計画していくこととし、次は 2025 年 11 月頃開催を目途に検討を進めていくこととした（主担当：芝原委員、副担当：中野委員）。
 - ・中野委員から紹介のあった電気学会の倫理事例集第 3 集については、事例集の発行は労力のかかることであり、関心のある方は購入してお読みいただきたい（「事例 12 若手技術者が挑み続ける長い闘い」は 1F 廃炉の事例）。
 - ・役割分担表の中野委員の特記業務の欄に、技術倫理協議会対応とメーリングリスト管理を記載する。

(3) YGN との倫理研究会について

神谷幹事から資料 147-3 に基づき、YGN との倫理研究会の実施結果について説明があった。参加した委員から、以下の所感が述べられた。

- ・参加者には普段接する機会のない学生の方もいて、意見交換を通して自分の考えとのギャップを感じる貴重な機会となり、学びの場となった。
- ・積極的、自発的に議論がなされ、たのもしさを感じた。委員会として、このような考える場を作ることが大切だと感じた。
- ・若い人が相手の意見を聴いて、自分の意見を素直に語っていたことが印象に残った。倫理について意識していないかもしれないが、自分らの世代と違って、学生時代に技術者倫理を学んでいることが影響しているのかもしれない。
- ・今回のように積極的な議論ができて、次のステップとして意見をまとめていくということが上手くできないところがあり、逆にそこも教育の影響があるかもしれない。

(4) 2025 年春の年会企画セッションについて

中村委員から資料 147-4-1 に基づき説明があり、引き続き検討を進めていくこととした。主な議論等は以下のとおり。

- ・前回委員会以降のメールベースでの議論を踏まえて、テーマは「倫理的な安全行動を支える心とは何か？～安全文化の基盤ともなる心構えとその拠りどころを探る～」とした。
- ・講師の了解が得られており、学会事務局へ提案書提出済み。近いうちに講師との打ち合わせを実施予定
- ・座長は主担当の中村委員が担い、閉会挨拶は後藤委員にお願いする。
- ・総合討論の進め方（論点の提示、指定討論者を予定するのか等）、QR コードによるアンケートの実施など、引き続き検討を進めていくこととした。

(5) 次回倫理規程改定に向けた検討について

神谷幹事から資料 147-5-1～147-5-4 に基づき、前回以降のメールベースでの議論を反映した改定案について説明があった。

改定案の前文の 2 段落目に関して、以下の議論があり、意見を踏まえた代案を作成し、週内にクイックのメール審議を行うこととした。

- ・現案では、核セキュリティが負の側面のように読め、適切ではないのではないか。
- ・これまでの検討でそのような意見もあったので、「…核セキュリティ等の問題…」を「…核セキュリティ等の課題…」とする改定案とした。原子力は核セキュリティへの対応で大変な措置をしないといけないので、社会からはその点を負の側面とみる向きはあるので、現案でも支障ないのではないか。
- ・現案では、1F 事故の影響の記述と同列に記載され、結果として「廃棄物と核セキュリティの課題」と「技術だけでは解決できない問題」が原子力の負の側面のように読めてしまうため、1F 事故影響と、課題および問題が分離された趣旨で読める表現がより良いということではないか。

- ・核セキュリティの課題とは、原発がテロの標的になることや核物質の軍事転用を指しており、このようなリスクが負の側面になると理解していたので、原案で違和感はないのではないか。
- ・本日の委員会で成案を得る予定であったが、委員からの意見を汲み取った対応をする必要がある。

上記前文２段落目以外の改定案については、参加委員全員が異議なく賛成し、委員の過半数を上回っていることから、委員会としての改定案として承認した。

(6) ミニ講演会

- ・大場委員長から、本会倫理規程制定時、制定以降、学会内の倫理状況、学協会の技術者倫理への取組み、1F 事故以降の議論・思い、書籍「不合理な原子力の世界」の著者としての思い等について講演があり、質疑応答を実施した。

6. 次 回：2025 年 2 月頃に開催することとし、別途調整することとした。

以上